

## 令和5年度 ちぐさこども園 自己評価報告書

## 1. ちぐさこども園の教育目標

- 「意欲」 …… 面白いことや楽しいことを十分に体験を通して、  
「〇〇したい」につながるエネルギーを心身ともに培う
- 「感性」 …… 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く
- 「思いやり」 …… 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、  
他者のことを慮る心や態度を培う。

## 2. 本年度の重点取組み事項 スローガン 『面白く、誠実に』

- ① 根拠のある(=発達の連続性をふまえた)「面白い保育」の実践。  
(保育課程の精査、園内職員間共有、行事見直し、働き方改革推進等)
- ② 保護者支援の推進(土曜日保育時間の延長、年間行事見直し等)

## 3. 重点的な取組みへの評価

項目	取組み内容	評価
① 面白い保育の実践	◎子ども(発達)に応じた保育実践の推進 ・(特に未満児での)遊び環境の充実 ・(特に以上児での)遊びの継続	B+ ・手作り玩具、自然物を含めた多様な素材活用、コーナー充実等、特に室内環境の充実が図れた。 ・時間的・空間的配慮と大人も含めた関係者の情報共有促進により、遊びが継続してより面白い保育につながった。 ・根拠となる保育課程の精査は不十分。 ・職員の休憩、有休取得率は向上。
② 保護者支援の推進	・土曜保育体制の見直し(時間延長、正職員の配置) ・希望保育期間の短縮	A ・土曜保育体制、希望保育期間の短縮等、計画通り実施できた。 ・園全体の見直しにより、一定の意識転換が見られた。 ・ただ、土曜保育利用者が少ない等、直接的な実施効果は限定的な模様。

## 4. ちぐさこども園運営の総合的な評価(重点事項以外も含む)

評価	理由
B+	・近年継続して取り組んでいる「子どもの主体性を尊重した遊びを中心とした保育」が浸透し、“面白い”実践が多数起きている。一方で、長年の課題となっている保育課程の精査が進まず、園として「根拠のある」保育とは言い難い。 ・職員の全体の休憩有休取得率は向上してきたので、今後は個別の実態に合わせた対応を検討。 ・保護者支援について、体制見直しは進んだので、今後更なるニーズ把握が必要。 ・コロナの影響もあり、園内の取り組み(保育、職員等)に比べ、園外との関わりが不十分。

## 5. 今後の課題

- ・更なる保育の質向上(保育課程の精査、異年齢、ねらいのある“自由”)
- ・激変する環境変化への対応(園外とのより積極的な有意義な関わり、多機能化に向けた施設整備)